

旭

印刷を支え加工を活かす

マルチ部門 石橋 貴将さん

「自分が手にして嫌なものを作らない」と信条を語る、マルチ部門の石橋さん。その実直な言葉には、勤続26年の経験に裏打ちされた、仕事への誠実な姿勢が表れています。石橋さんの確かな技術と心構えは、過去に経験した多くの失敗と向き合い、「忘れない」ことで培われたものでした。

——仕事で最も「技」が試される
と感じる部分はどこですか？

どのような仕事であっても、技は試されるもの。1つを挙げるのは難しいのですが、強いて言うなら紙の扱いでしょうか。現在所属しているマルチ部門では、カレンダーやノートの製本作業を行っています。そこで扱う紙は、汚れやすいものや傷がつきやすいものなど多種多様。当然ながら、作業を行う際は常に神経を使います。あらゆる紙にうまく対応するためには、機械をこまめに手入れするしかありません。

——その技術を習得するために、
どのような努力や工夫をされてきましたか？

特別な努力をしたという意識はありません。すべては、これまで経験した失敗の積み重ねだと思っています。元々不器用だったため、入社して以来、多くの失敗をしてきました。また1人で学べることにには限界があ

——忙しい時期を乗り越えるときに意識していることを教えてください。

り、行き詰まったときには先輩に質問をぶつけることも。日々の失敗から、「これはダメだ」という感覚を自然に身につけてきた感じです。ちなみに私は、失敗すると長く引きずるタイプ。だからこそ、そのときの悔しさを忘れないことが、同じ過ちを繰り返さないための何よりの糧となっています。

——旭紙工の製品の「品質」を支えるために一番大切にしていることを教えてください。

何よりも、「自分が手にして嫌なものを作らない」ということに尽きます。お客様が手に取ったときに「あれ？」と思うようなものは、決して世に出したくありません。これは技術というより、「丁寧に仕事をする」という心構えの問題だと思っています。自工程での不良はもちろん、前工程の不具合を見逃さないことも自分の役割の1つ。万が一にも不良品が流出しないよう、作業中は常に気を配っています。

を乗り越えるための重要な要素だと思っています。

——社員の皆さんへ伝えたいことはありますか？

繰り返しになりますが、「自分が手にして嫌なものを作らない」という気持ちを、みんなで共有していきたいと考えています。そしてもう1つ伝えたいのは、機械を扱う際は怪我に気をつけてほしいということ。これからも安全第一で、丁寧なものをづくりを続けていきたいと思います。



企業情報

- ◆創立年：1983年1月
- ※創業：1963年
- ◆年商：17.6億円
- ◆従業員数：200人

※2023年12月実績

「仲間を大切にすること」。物流部を率いる峯課長が、自身の経験から導き出した揺るぎない信念です。その「声かけ」を大切にしている姿勢は、旭紙工の強みである「団結力」と、現場の意見を吸い上げる組織風土に深く根ざしていました。仲間への想いと、従業員の負担軽減を目指す未来へのビジョンに迫ります。

旭紙工の
ここがすごい！

旭紙工の強み

団結力を生む

「意見を吸い上げる仕組み」

従業員数は多い方ですが、社長を筆頭に全員が同じゴールに向かって取り組んでいる「団結力」が強みだと感じています。一丸となって目標に向かえるのは、部署の垣根を越えた協力体制があるからこそ。厳しさとアットホームな雰囲気の共存が、団結力につながっていると感じます。特に、現場の意見を吸い上げる仕組みが機能している点が大きいと言えるでしょう。週2回、グループに分かれて行う朝礼で、班長が日常の苦勞や失敗の声を吸い上げ、課長や工場長へ報告。さらに幹部朝礼で社長に報告が上がり、「こういう声が上がっているから改善しよう」と全社で取り組む流れができているのです。作業性の改善や備品の購入など、若手の日頃の意見が尊重され、働きやすさにつながっていると実感しています。

今後長期的に成し遂げたいこと

効率化を推進し、
従業員の負担軽減を目指す

自動化やシステム導入をさらに推し進め、事務作業をより簡潔にし、全体の生産性を高めていきたいと考えています。生産性を落とさず、従業員の労働時間削減と疲労軽減が目的です。現在もシステム導入によって簡素化は進んでいますが、さらに効率を高めていく。そして残業を減らし、定時で帰れる日を増やしたいと考えています。



峯さんの
考えとは？



物流部 課長
みね たかし
峯 貴史さん

仕事をする上での信念

仲間を大切にすること

部署の垣根なく、現場で作業されている方や新入社員にも意識して声をかけるようにしています。例えば、作業で疲れている方に「大丈夫か」と私が一言かけるだけでも、相手が笑顔になったり、挨拶してくれたり。また、困ったときは私に声をかけてくれるようになります。

自身が救われた「声かけ」の力

若い頃、私は一人で何でもこなせるタイプではありませんでした。そのようなとき、作業指導だけでなく、上司の声かけに救われた経験があります。その支えがあったからこそ今がある。現在も周囲に助けられつつ、「自分も仲間をサポートする側にならなければ」と強く思い、業務に取り組んでいます。



仕事をする上で大切にしている考え方

安全：従業員を守る
最優先事項

従業員を預かる立場として、安全が最優先。体調面も含め、万全の体制で働いてもらえるよう配慮しています。物流部門は、現場を第三者的に見ることができる立場です。そのため、無理な作業や体調の変化に気づきやすく、その特性を活かして安全管理を徹底しています。

効率：現状を疑う
改善の視点

常に「現状がベストか」「1分でも縮まらないか」と改善点を探しています。物の置き方やトラックの対応1つとっても、試行錯誤し効率化を目指しています。

顧客満足：
信頼を築く対応力

物流は、お客様やその専属物流会社など、社外の方と直接やり取りすることが多い部門です。「旭紙工」の看板を背負い、常に謙虚に対応しています。急な納期変更や無理なご要望にも、すぐ「無理です」とは言いません。代替案の提案など、常に最善の方法を模索。どうすれば実現できるかを全力で考え、現場の協力も得ながら要望に応えることで、信頼関係を築けると考えています。